

2026年度 第1四半期 決算

- I. 2026年度 第1四半期 決算概要
 - II. 2026年度 通期 業績予想
 - III. 中期経営計画の推進状況
 - IV. 補足資料
-

シャープ株式会社
2026年8月7日

- ・ 本日はご多忙な中、ご参加頂き ありがとうございます。
また、日頃は、当社の広報活動・IR活動にご協力頂き、
まことにありがとうございます。
- ・ それでは、パワーポイント資料に沿って、ご説明いたします。

連結業績概要

- ・ 第1四半期のブランド事業の売上高は、2セグメントいずれも増収となり、前年同期を上回る。営業利益は、部材価格の上昇や円安の進行による影響が大きく、減益となった。

ディスプレイデバイスは、減収となったものの、営業赤字は縮小。

- ・ 全社トータルでは減収減益となったが、
営業利益は2025年度第4四半期を上回り、最終利益も黒字を確保。
- ・ 自己資本比率は、2022年度第3四半期以来となる 20%台に回復。
- ・ 樹脂・燃料価格の上昇による影響を織り込むとともに、想定為替レートを見直し、通期業績予想を修正。

SHARP

1

- ・ 最初は、連結業績の概要になります。

- ・ 第1四半期のブランド事業の売上高は、2セグメントいずれも増収となり、前年同期を上回りました。
営業利益は、部材価格の上昇や円安の進行による影響が大きく、減益となりました。

ディスプレイデバイスは、減収となったものの、営業赤字は縮小しました。

- ・ その結果、全社トータルでは 減収減益となりましたが、
営業利益は 2025年度第4四半期を上回っており、
最終利益も 黒字を確保できております。
- ・ 自己資本比率は、引き続き上昇し、2022年度第3四半期以来となる 20%台に回復しました。
- ・ 樹脂・燃料価格の上昇による影響を織り込むとともに、想定為替レートを見直し、通期業績予想を修正しました。

I . 2026年度 第1四半期 決算概要

- ・ まず、2026年度 第1四半期の実績について、ご説明させていただきます。

2026年度 第1四半期 連結業績概要

(単位:十億円)	FY2025				FY2026		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Y on Y	
						増減額	増減率
売上高	472.4	477.8	467.3	475.1	435.2	-37.2	-7.9%
営業利益	15.3 (3.2%)	13.6 (2.9%)	12.0 (2.6%)	7.5 (1.6%)	8.2 (1.9%)	-7.1	-46.3%
経常利益	18.5 (3.9%)	14.9 (3.1%)	14.1 (3.0%)	10.2 (2.2%)	6.5 (1.5%)	-12.0	-64.5%
最終利益	27.2 (5.8%)	18.2 (3.8%)	22.0 (4.7%)	-20.0 (-4.2%)	3.1 (0.7%)	-24.1	-88.6%
平均為替レート							
ドル円	144.60	147.48	154.15	156.87	159.49	-	-
ユーロ円	163.81	172.31	179.39	183.65	185.38	-	-

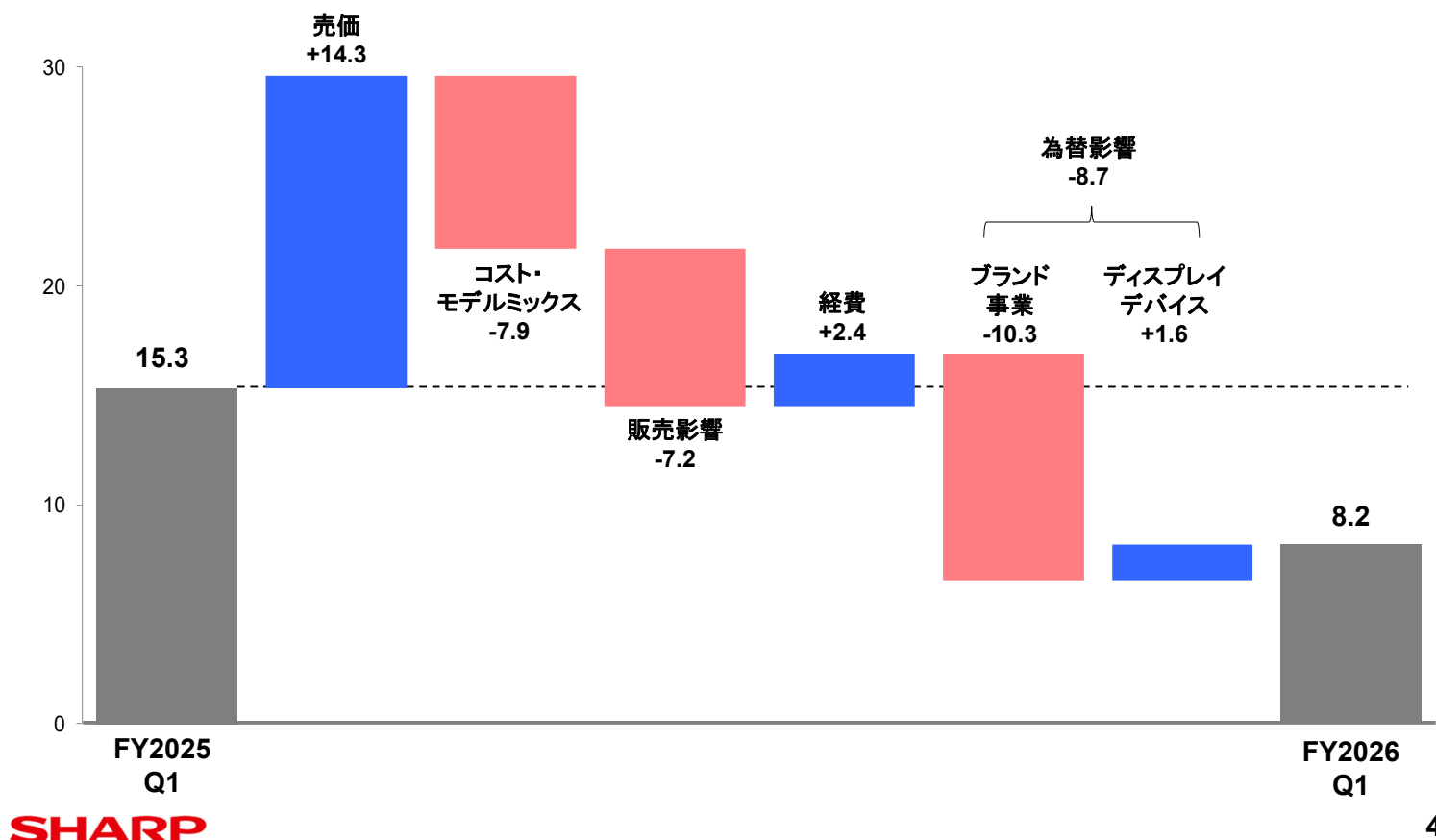
SHARP

3

- ・ 次のスライドをご覧ください。第1四半期の業績です。
- ・ 売上高は、4,352億円となりました。
- ・ 利益につきましては、
営業利益が 82億円、経常利益が 65億円、最終利益が 31億円となりました。

営業利益 要因別増減分析(対前年同期)

(管理会計)
(単位:十億円)

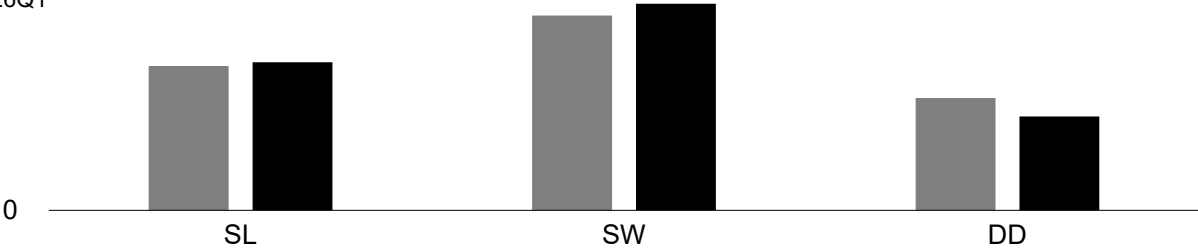


- ・ 次のスライドに、営業利益の前年同期からの増減を要因別にまとめていますので、ご覧ください。
- ・ メモリなど部材価格の高騰によるコストアップや販売減に伴う影響については、売価への反映や経費削減等で打ち返しましたが、為替影響が大きく、減益となりました。

セグメント別売上高

(単位:十億円)	FY2025				FY2026	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Y on Y
スマートライフ	140.3	150.7	157.1	149.6	144.0	+2.6%
スマートワークプレイス	189.3	219.1	207.5	217.7	200.8	+6.1%
ブランド事業	329.7	369.9	364.7	367.4	344.9	+4.6%
ディスプレイデバイス	109.2	102.6	103.5	108.0	91.3	-16.4%
小計	439.0	472.5	468.2	475.4	436.2	-0.6%
その他	38.0	7.2	0.8	0.8	-	-
合計	477.0	479.8	469.1	476.3	436.2	-8.6%
調整額	-4.5	-1.9	-1.7	-1.1	-1.0	-
全社	472.4	477.8	467.3	475.1	435.2	-7.9%

左棒：FY2025Q1
右棒：FY2026Q1



SHARP

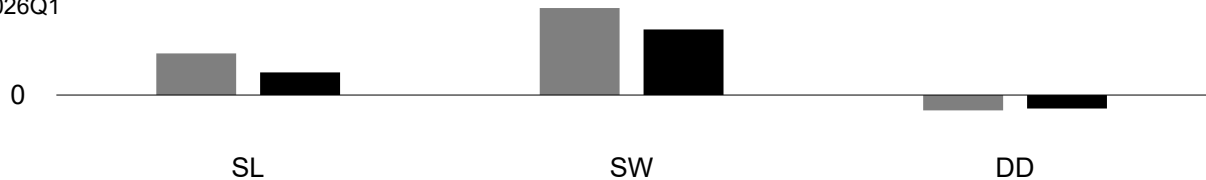
※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

- ・ 次は、セグメント別 売上高の一覧です。
- ・ ブランド事業の売上高は、前年同期比 4.6%増の 3,449億円となっております。

セグメント別営業利益

(単位:十億円)	FY2025				FY2026	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Y on Y
スマートライフ	6.8 (4.9%)	6.4 (4.2%)	8.4 (5.4%)	6.7 (4.5%)	3.7 (2.6%)	-45.6%
スマートワークプレイス	14.2 (7.5%)	18.7 (8.6%)	13.7 (6.6%)	10.8 (5.0%)	10.7 (5.3%)	-24.6%
ブランド事業	21.0 (6.4%)	25.1 (6.8%)	22.2 (6.1%)	17.5 (4.8%)	14.4 (4.2%)	-31.5%
ディスプレイデバイス	-2.5 (-2.3%)	-6.2 (-6.1%)	-4.8 (-4.6%)	-4.7 (-4.4%)	-2.1 (-2.4%)	-
小計	18.5 (4.2%)	18.9 (4.0%)	17.3 (3.7%)	12.8 (2.7%)	12.2 (2.8%)	-33.9%
その他	1.3 (3.5%)	-0.1 (-1.6%)	-0.5 (-58.8%)	-0.0 (-2.6%)	-	-
合計	19.9 (4.2%)	18.8 (3.9%)	16.8 (3.6%)	12.8 (2.7%)	12.2 (2.8%)	-38.3%
調整額	-4.6	-5.1	-4.8	-5.2	-4.0	-
全社	15.3 (3.2%)	13.6 (2.9%)	12.0 (2.6%)	7.5 (1.6%)	8.2 (1.9%)	-46.3%

左棒：FY2025Q1
右棒：FY2026Q1



SHARP

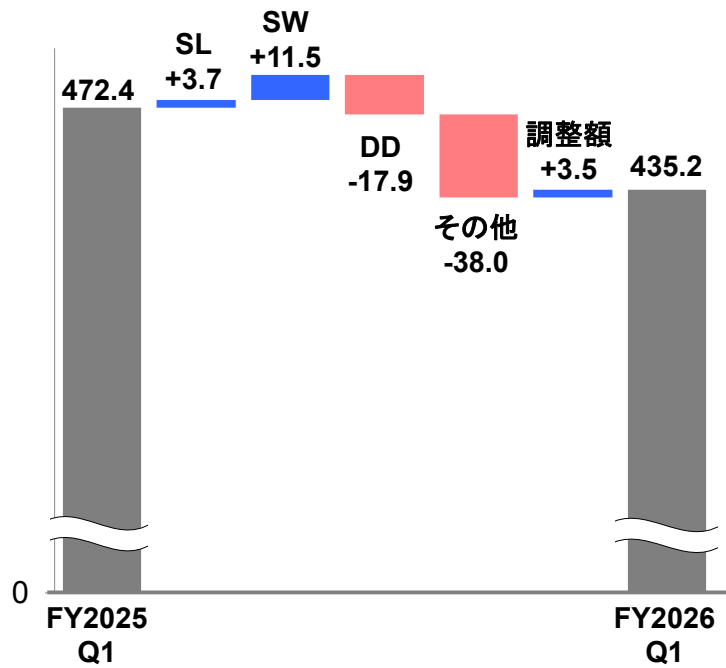
※()内の数字は営業利益率です。

6

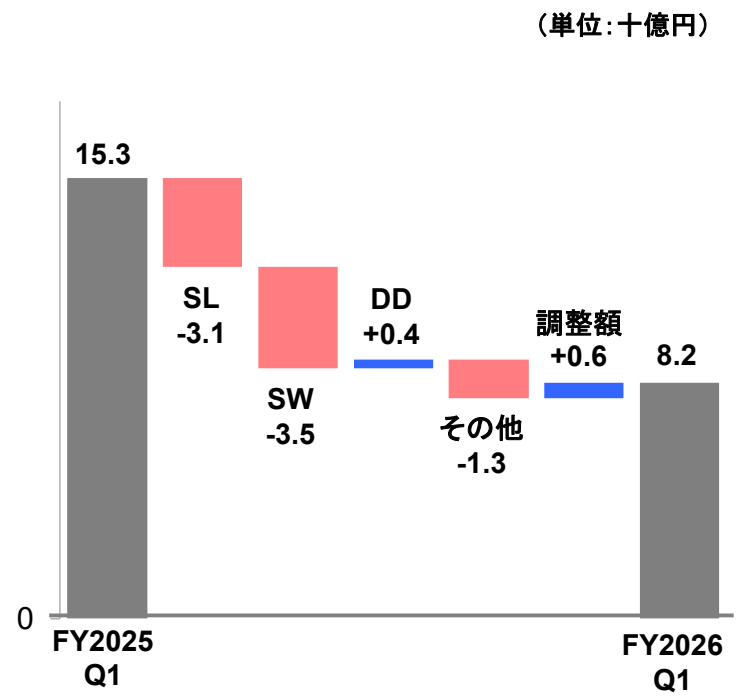
- 次は、セグメント別 営業利益の一覧になります。
- ブランド事業の営業利益は、前年同期比 31.5%減の 144億円、営業利益率は 4.2%となっております。

セグメント別増減分析(対前年同期)

売上高



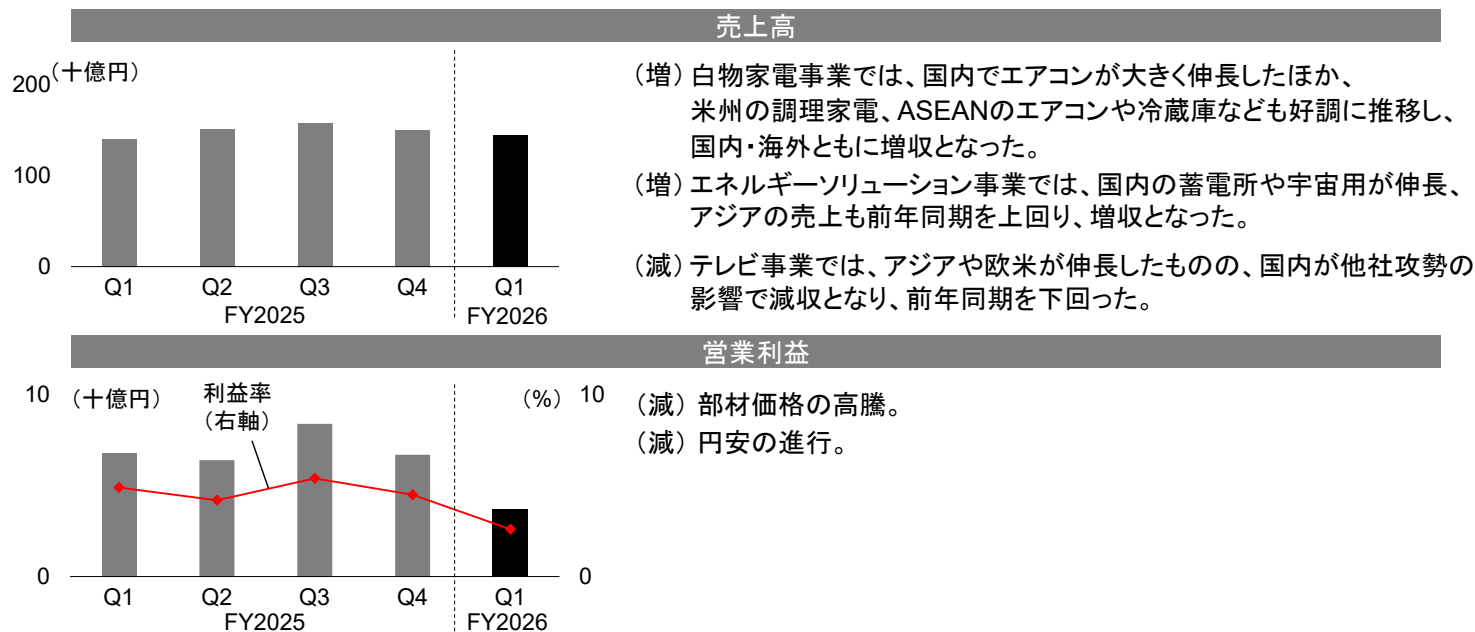
営業利益



- ・ 次のスライドに、売上高と営業利益の増減をセグメント別にまとめていますので、ご覧ください。

スマートライフ

(単位:十億円)	FY2025				FY2026	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Y on Y
売上高	140.3	150.7	157.1	149.6	144.0	+2.6%
営業利益	6.8	6.4	8.4	6.7	3.7	-45.6%
(利益率)	(4.9%)	(4.2%)	(5.4%)	(4.5%)	(2.6%)	



SHARP

8

- 次は、セグメントごとの概況になります。まずは、スマートライフです。
- 売上高は、白物家電事業、エネルギーソリューション事業が増収、テレビ事業が減収となり、前年同期比 2.6%増の 1,440億円となりました。

白物家電事業は、国内・海外ともに増収となりました。

国内では、2027年度省エネ基準改訂を前にした駆け込み需要もあり、エアコンが大幅に伸長しました。

海外では、米州で調理家電が伸長したほか、ASEANで前年同期に冷夏の影響を受けて需要が落ち込んだエアコンが回復し、冷蔵庫なども好調でした。

エネルギーソリューション事業は、国内の蓄電所や宇宙用が伸長したほか、アジアの売上も前年同期を上回り、増収となりました。

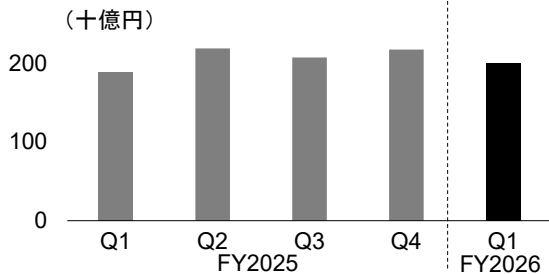
テレビ事業は、アジアや欧米が伸長したものの、国内が他社攻勢の影響で減収となったことから、前年同期を下回りました。

- 営業利益は 45.6%減の 37億円、営業利益率は 2.6%となりました。
- 部材価格の高騰や、円安の進行などにより、減益となりました。

スマートワークプレイス

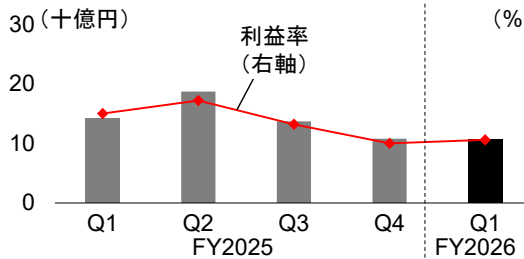
(単位:十億円)	FY2025				FY2026	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Y on Y
売上高	189.3	219.1	207.5	217.7	200.8	+6.1%
営業利益	14.2	18.7	13.7	10.8	10.7	-24.6%
(利益率)	(7.5%)	(8.6%)	(6.6%)	(5.0%)	(5.3%)	

売上高



- (増) PC事業では、価格転嫁が進展したことに加え、売価上昇に備えた前倒し需要もあったことから、国内B2Bや官公庁・自治体向け、GIGA向けが大幅に伸長した。
- (増) ビジネスソリューション事業では、オフィスソリューションが各地域で伸長したほか、MFPも国内外で増収となった。
- (減) 通信事業は、メモリ価格高騰の影響で市況が冷え込むなか、他社攻勢の影響もあり、減収となった。

営業利益



- (増) モデルミックスの改善。
- (減) メモリ価格の高騰。
- (減) 円安の進行。

SHARP

9

- ・ 次は、スマートワークプレイスです。
- ・ 売上高は、PC事業、ビジネスソリューション事業が増収、通信事業が減収となり、前年同期比 6.1%増の 2,008億円となりました。

PC事業は、価格転嫁が進展したことに加え、売価上昇に備えた前倒し需要もあったことから、国内B2Bや官公庁・自治体向け、GIGA向けが大幅に伸長しました。

ビジネスソリューション事業は、オフィスソリューションが各地域で伸長したほか、MFPも国内外で増収となりました。

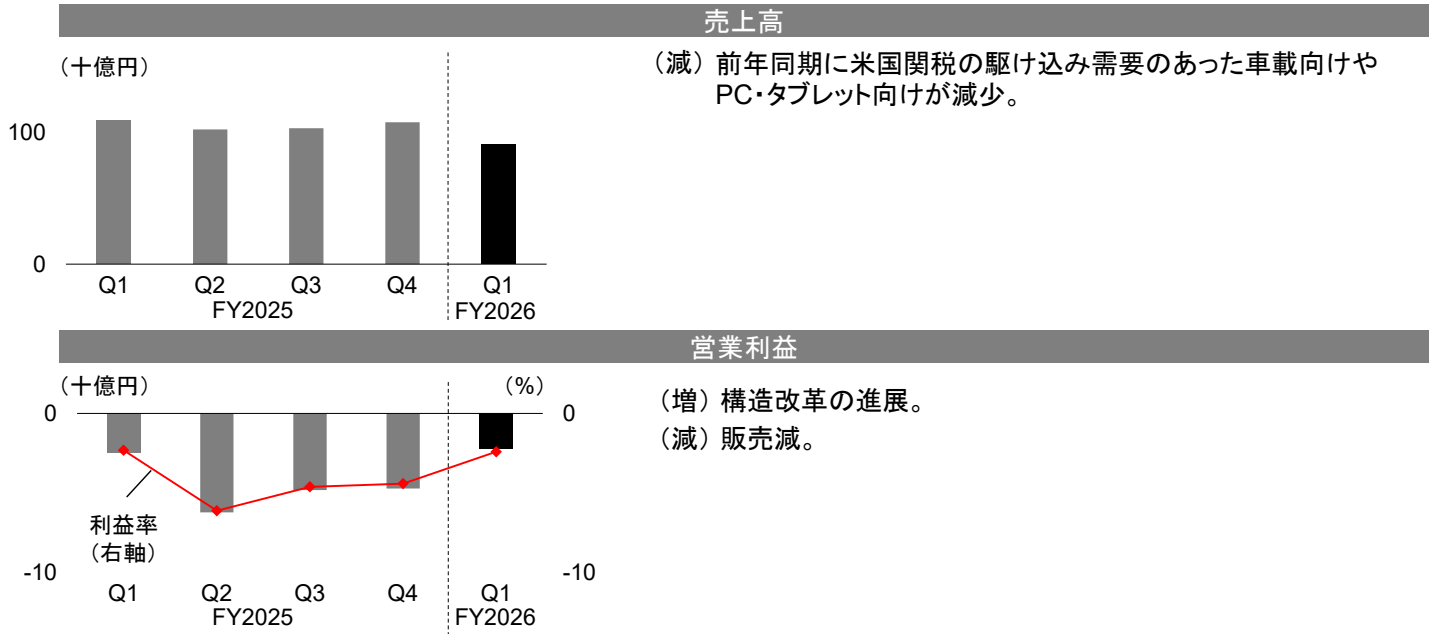
通信事業は、メモリ価格高騰の影響で市況が冷え込むなか、他社攻勢の影響もあり、減収となりました。

- ・ 営業利益は 24.6%減の 107億円、営業利益率は 5.3%となっております。

メモリ価格の高騰や円安の進行による影響が大きく、先行調達や価格転嫁、モデルミックスの改善などの取り組みを進めたものの、減益となりました。

ディスプレイデバイス

(単位:十億円)	FY2025				FY2026	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Y on Y
売上高	109.2	102.6	103.5	108.0	91.3	-16.4%
営業利益	-2.5	-6.2	-4.8	-4.7	-2.1	-
(利益率)	(-2.3%)	(-6.1%)	(-4.6%)	(-4.4%)	(-2.4%)	



SHARP

10

・ 次は、ディスプレイデバイスです。

・ 売上高は、前年同期比 16.4%減の 913億円となりました。

前年同期に米国関税の駆け込み需要のあった車載向けやPC・タブレット向けが減少しました。

・ 営業利益は、前年同期の25億円の赤字に対して、4億円改善し、21億円の赤字となりました。

販売が減少した影響はありましたが、構造改革を進めた効果などがあり、赤字が縮小しました。

営業外損益・特別損益・法人税等の概要

(単位:十億円)	FY2025				FY2026	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Y on Y 増減額
営業利益	15.3	13.6	12.0	7.5	8.2	-7.1
営業外損益	+3.2	+1.3	+2.1	+2.6	-1.6	-4.8
内: 支払利息	-2.0	-2.2	-2.1	-2.2	-2.9	-0.9
為替差損益	+1.2	-0.3	+0.5	+1.9	+0.0	-1.2
投資関連収益・費用	-0.2	+0.0	+0.0	+0.0	+0.0	+0.2
持分法による投資損益	+2.1	+1.8	+2.0	+1.8	+2.1	-0.0
シンジケートローン手数料	-	-	-	-	-2.2	-2.2
経常利益	18.5	14.9	14.1	10.2	6.5	-12.0
特別損益	+11.7	+5.5	+12.5	-24.3	-1.1	-12.8
内: 固定資産売却益	+11.6	+7.8	+14.3	+2.2	+0.2	-11.4
事業譲渡益	+0.8	-0.8	+1.9	-0.0	-	-0.8
関係会社株式売却損	-	-	-	-	-0.8	-0.8
事業構造改革費用	-	-	-3.0	-16.8	-0.5	-0.5
減損損失	-0.5	-2.5	-0.5	-2.5	-	+0.5
製品保証引当金繰入額	-	-	-	-7.0	-	-
税前利益	30.3	20.4	26.6	-14.0	5.4	-24.9
法人税等 他	-3.0	-2.2	-4.6	-6.0	-2.3	+0.7
最終利益	27.2	18.2	22.0	-20.0	3.1	-24.1

SHARP

11

- ・ 次は、主な「営業外損益」・「特別損益」・「法人税等」の概要です。
- ・ 第1四半期に、大きな営業外収益や特別利益は計上しておりません。

連結貸借対照表推移

- 自己資本比率が20.2%まで上昇。

(単位:十億円)

	FY2025		FY2026		FY2025		FY2026
	12月末	3月末	6月末		12月末	3月末	6月末
現預金	241.7	238.4	250.3	買掛金等	302.6	273.7	271.5
売掛金等	380.0	368.8	343.9	短期借入金	437.2	432.2	81.6
棚卸資産	265.9	250.3	289.1	1年内社債	0.0	0.0	0.0
その他	87.6	91.7	83.8	その他	308.7	339.4	317.0
流動資産 計	975.4	949.3	967.2	流動負債 計	1,048.6	1,045.3	670.2
有形固定資産	183.4	183.2	183.0	社債	0.0	0.0	0.0
無形固定資産	33.6	38.1	37.4	長期借入金	11.7	0.5	386.9
投資その他資産	243.7	257.4	263.9	その他	104.8	87.0	86.3
固定資産 計	460.8	478.8	484.4	固定負債 計	116.6	87.5	473.2
資産合計	1,436.2	1,428.2	1,451.7	純資産	270.9	295.2	308.2
				負債純資産合計	1,436.2	1,428.2	1,451.7
期末日レート							
ドル円	156.54	159.93	162.45	自己資本比率	17.8%	19.6%	20.2%
ユーロ円	184.26	183.44	185.44	自己資本	256.2	279.9	292.6

SHARP

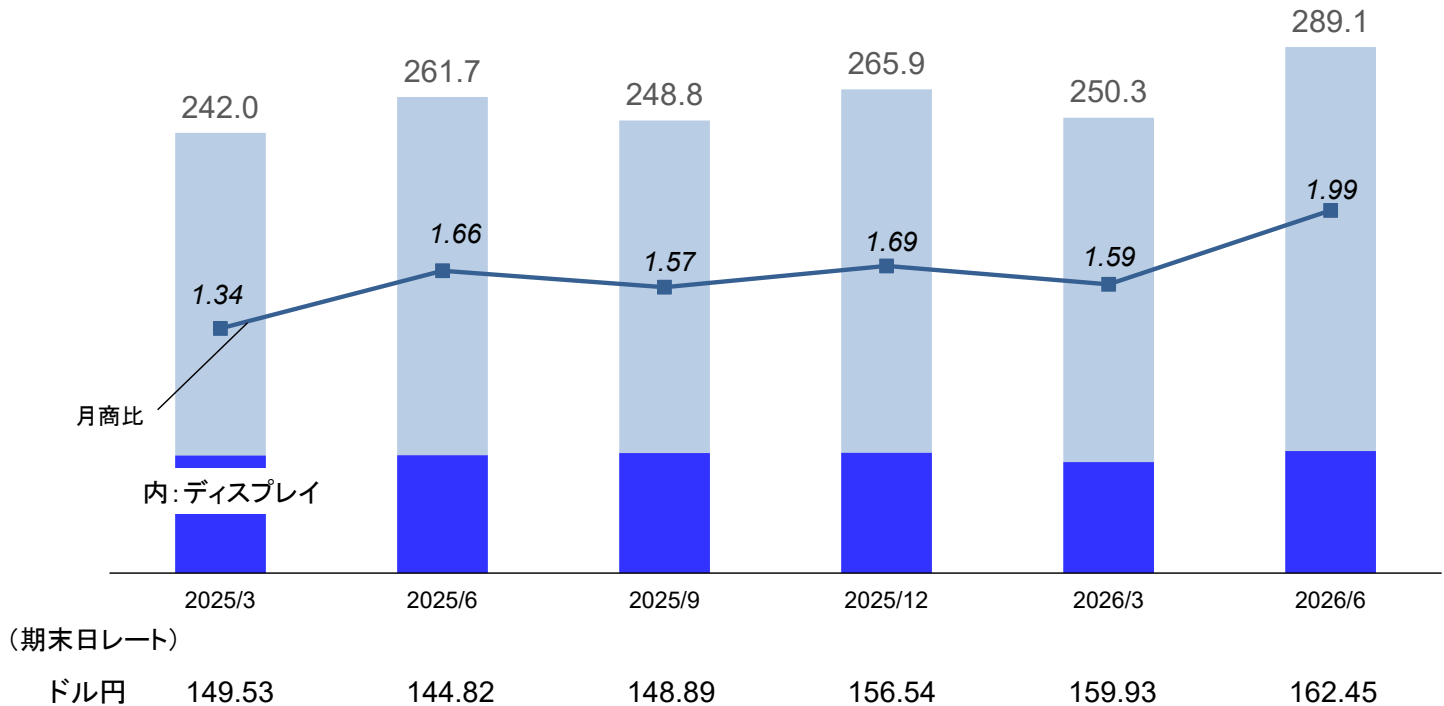
12

- 次は、貸借対照表の推移です。
- 「現預金」は、2026年3月末の 2,384億円に対し、2,503億円に、
「純資産」は 2,952億円に対し、3,082億円に、
「自己資本比率」は、19.6%に対し、20.2%になりました。
- なお、シンジケートローン契約の更改に伴い、
短期借入金の大半が長期借入金に切り替わっています。

棚卸資産の推移

- ・ 棚卸資産は、価格が高騰しているメモリの先行調達を行ったことなどから、3月末比で増加。
- ・ 今後の販売計画に沿った適正な在庫水準。

(単位:十億円、ヶ月)



SHARP

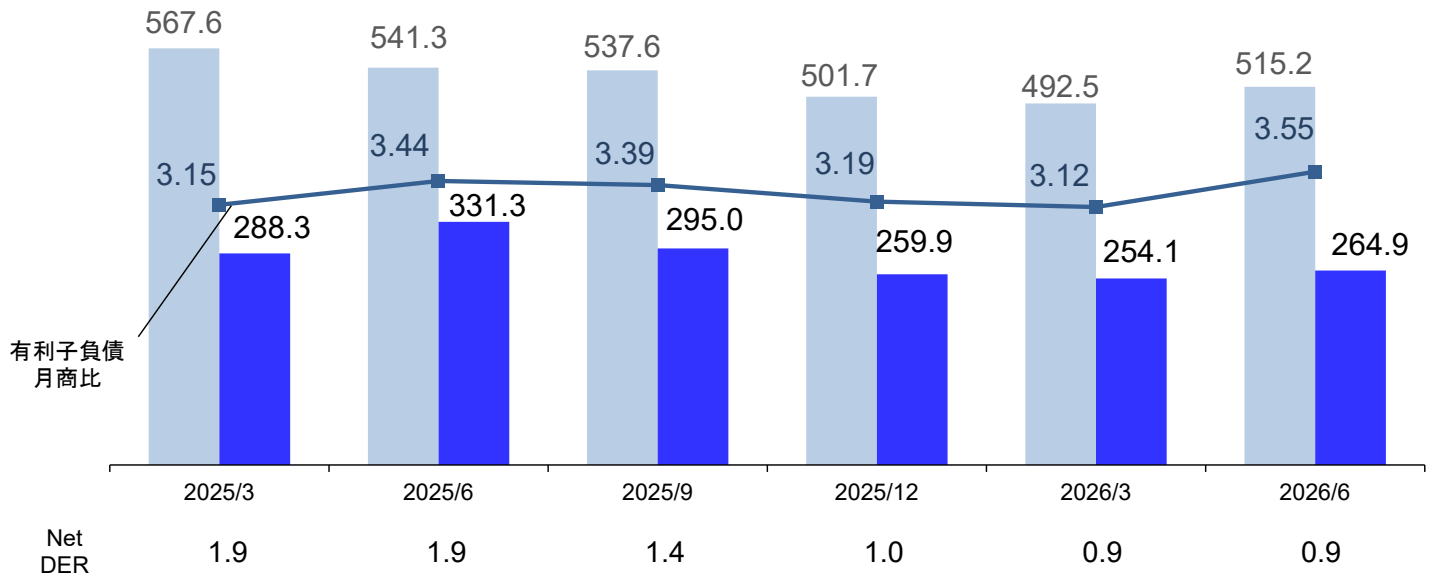
13

- ・ 次は、棚卸資産の推移になります。
- ・ 棚卸資産は、価格が高騰しているメモリの先行調達を行ったことなどから、3月末の2,503億円に対し、2,891億円に増加しました。
ただし、先行調達の影響を除けば、前年同期を下回っており、今後の販売計画に沿った適正水準となっております。
- ・ 引き続き、状況の変化を注視し、適正な在庫の管理に努めてまいります。

有利子負債の推移

(単位:十億円、ヶ月)

左棒: 有利子負債
右棒: 純有利子負債



※純有利子負債: 有利子負債 - 現預金

SHARP

14

- ・ 次は、有利子負債の推移です。
- ・ 部材の先行調達を行った影響もあり、有利子負債は、3月末の 4,925億円から 5,152億円に、純有利子負債は 2,541億円から2,649億円に増加しました。

Ⅱ．2026年度 通期 業績予想

2026年度 通期 業績予想

(単位:十億円)

	FY2025	FY2026			
	通期実績	前回 通期予想	今回 通期予想	Y on Y	修正額
売上高	1,892.8	1,770.0	1,770.0	-6.5%	0.0
営業利益 (利益率)	48.5 (2.6%)	49.0 (2.8%)	30.0 (1.7%)	-38.2%	-19.0
経常利益 (利益率)	57.9 (3.1%)	39.0 (2.2%)	22.0 (1.2%)	-62.0%	-17.0
最終利益 (利益率)	47.4 (2.5%)	42.0 (2.4%)	25.0 (1.4%)	-47.3%	-17.0
平均為替レート					
ドル円	150.78	156.00	160.00		
ユーロ円	174.79	183.00	183.00		

SHARP

16

- ・ 次は、通期の業績予想です。
- ・ 前回公表時点では想定が難しかった樹脂・燃料価格の上昇による影響を織り込むとともに、想定為替レートを1ドル156円から160円に見直し、通期の業績予想を修正しています。

営業利益の修正に伴い、経常利益、最終利益も修正しています。

セグメント別 業績予想

(単位:十億円)		FY2025	FY2026			
		通期実績	前回 通期予想	今回 通期予想	前年比	修正額
スマートライフ	売上高	597.9	664.0	630.0	+5.4%	-34.0
	営業利益	28.4	41.0	25.0	-12.1%	-16.0
	(利益率)	(4.8%)	(6.2%)	(4.0%)		
スマートワークプレイス	売上高	833.8	779.0	832.0	-0.2%	+53.0
	営業利益	57.5	39.0	42.0	-27.1%	+3.0
	(利益率)	(6.9%)	(5.0%)	(5.0%)		
ブランド事業	売上高	1,431.8	1,443.0	1,462.0	+2.1%	+19.0
	営業利益	86.0	80.0	67.0	-22.1%	-13.0
	(利益率)	(6.0%)	(5.5%)	(4.6%)		
ディスプレイデバイス	売上高	423.5	323.0	304.0	-28.2%	-19.0
	営業利益	-18.2	-6.0	-12.0	-	-6.0
	(利益率)	(-4.3%)	(-1.9%)	(-3.9%)		
小計	売上高	1,855.3	1,766.0	1,766.0	-4.8%	-
	営業利益	67.7	74.0	55.0	-18.9%	-19.0
	(利益率)	(3.7%)	(4.2%)	(3.1%)		
その他	売上高	47.0	-	-	-	-
	営業利益	0.6	-	-	-	-
	(利益率)	(1.5%)				
調整額	売上高	-9.5	4.0	4.0	-	-
	営業利益	-19.9	-25.0	-25.0	-	-
	(利益率)					
全社	売上高	1,892.8	1,770.0	1,770.0	-6.5%	0.0
	営業利益	48.5	49.0	30.0	-38.2%	-19.0
	(利益率)	(2.6%)	(2.8%)	(1.7%)		

SHARP

17

- ・ 次のスライドはセグメント別の業績予想になります。
- ・ ブランド事業では、スマートライフの売上高・営業利益を下方修正し、スマートワークプレイスを上方修正しています。

スマートライフでは、白物家電を中心に樹脂価格の上昇や想定為替レートの変更による影響を織り込んだほか、テレビ事業の販売減やエネルギーソリューション事業のEPC案件のズレなどを反映しました。

一方、スマートワークプレイスでは、通信事業の売上が競争激化により期初想定を下回るものの、PC事業での売価上昇に備えた前倒し需要の取り込みや価格転嫁の進展により打ち返せる見込みであることから、売上高を上方修正しています。営業利益についても、為替のマイナス影響などはありませんが、販売増に加えてメモリなどの先行調達やモデルミックスの改善が順調に進んでいることから、上方修正しています。

- ・ ディ스플레이デバイスは、亀山第2工場の生産停止プロセスは順調に進捗しているものの、継続事業における顧客需要の変動リスクを反映し、売上高を下方修正、部材価格の上昇による影響も織り込み、営業利益を下方修正しています。

Ⅲ. 中期経営計画の推進状況

中期経営計画の推進状況(1/2)

BG/BU	重点取り組みの推進状況
1. スマートライフ	➤ 様々な機器やサービスと連携する「統合AIサービス」を近日発表予定。 ➤ 国内B2B売上高が対前年約40%伸長。(FY2026Q1)
2. スマートワークプレイス	➤ 3月に子会社化した「㈱シナプスイノベーション」との連携により、ERPを活用した統合ソリューション提案を開始。 ➤ 大手衛星オペレーターのSESと、衛星通信サービス分野におけるパートナーシップ構築に向けて基本合意。(6月30日)
3. ディスプレイデバイス	➤ 亀山第2工場の生産停止プロセスが順調に進捗。 ➤ 当事業に関連する国内法人などをシャープ㈱に再統合。(10月1日予定)

- ・ 次のスライドは、中期経営計画の推進状況です。
- ・ 各事業とも、6月の事業説明会でご説明した方向性に沿って、取り組みが着実に進捗しております。
- ・ なお、ディスプレイデバイスでは、事業運営の効率化およびガバナンス強化を目的として、当事業に関連する国内法人などを10月1日付でシャープ株式会社に再統合することを決定しました。今後は、高付加価値製品を中心とした事業成長に加え、ディスプレイ関連技術を活用した新規事業の創出を進めることで、新たな収益源の獲得を目指してまいります。

中期経営計画の推進状況(2/2)

AIインフラ

- シャープブランドでのAIサーバー事業の展開に向け、事業スキーム及び諸条件の具体化を推進中。9月を目途に説明会を開催予定。
- AIロボットやフィジカルAIの開発基盤となる国産マルチモーダル基盤モデルの研究開発を推進する「Noetra」社に出資。



鴻海との連携強化

- 6月24日、鴻海と「新規事業における戦略的協業に関する覚書」を締結。
[主な対象範囲]
①AIインフラ・ソリューション ②エネルギー・ESG関連アプリケーション
③ロボティクス/スマートオートメーションシステム ④次世代通信技術 ⑤スマートシティ
- 取り組みのさらなる加速を目的に、台湾に新拠点を設立。(10月予定)

SHARP

20

- 続いて、AIインフラでは、シャープブランドでのAIサーバー事業の展開に向け、現在、事業スキームおよび諸条件の具体化を推進しており、9月を目途に説明会の開催を予定しております。
- また、鴻海との連携強化については、6月に「新規事業における戦略的協業に関する覚書」を締結しており、10月には、台湾に新拠点を設立し、連携を一層加速してまいります。
- ご説明は以上となります。

現在の厳しい事業環境が年度内まで続くと想定し、業績予想を下方修正しましたが、依然として不透明な状況にあることから、いかなる環境変化にも機敏に対応し、業績の積み上げに取り組んでまいります。

- ご清聴ありがとうございました。

IV. 補足資料

連結業績概要

(単位:十億円)

	FY2025			FY2026
	上期	下期	通期	通期予想
売上高	950.3	942.4	1,892.8	1,770.0
営業利益	28.9	19.6	48.5	30.0
(利益率)	(3.0%)	(2.1%)	(2.6%)	(1.7%)
経常利益	33.5	24.3	57.9	22.0
(利益率)	(3.5%)	(2.6%)	(3.1%)	(1.2%)
最終利益	45.4	1.9	47.4	25.0
(利益率)	(4.8%)	(0.2%)	(2.5%)	(1.4%)

四半期 連結業績概要

(単位:十億円)

	FY2025				FY2026
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
売上高	472.4	477.8	467.3	475.1	435.2
営業利益	15.3	13.6	12.0	7.5	8.2
(利益率)	(3.2%)	(2.9%)	(2.6%)	(1.6%)	(1.9%)
経常利益	18.5	14.9	14.1	10.2	6.5
(利益率)	(3.9%)	(3.1%)	(3.0%)	(2.2%)	(1.5%)
最終利益	27.2	18.2	22.0	-20.0	3.1
(利益率)	(5.8%)	(3.8%)	(4.7%)	(-4.2%)	(0.7%)

セグメント別売上高

(単位:十億円)

	FY2025			FY2026
	上期	下期	通期	通期予想
スマートライフ	291.1	306.8	597.9	630.0
スマートワークプレイス	408.5	425.2	833.8	832.0
ブランド事業	699.6	732.1	1,431.8	1,462.0
ディスプレイデバイス	211.8	211.6	423.5	304.0
小計	911.5	943.7	1,855.3	1,766.0
その他	45.3	1.6	47.0	-
合計	956.8	945.4	1,902.3	-
調整額	-6.5	-2.9	-9.5	4.0
全社	950.3	942.4	1,892.8	1,770.0

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

SHARP

S-4

セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	FY2025			FY2026
	上期	下期	通期	通期予想
スマートライフ	13.2 (4.6%)	15.1 (4.9%)	28.4 (4.8%)	25.0 (4.0%)
スマートワークプレイス	32.9 (8.1%)	24.6 (5.8%)	57.5 (6.9%)	42.0 (5.0%)
ブランド事業	46.2 (6.6%)	39.7 (5.4%)	86.0 (6.0%)	67.0 (4.6%)
ディスプレイデバイス	-8.7 (-4.1%)	-9.5 (-4.5%)	-18.2 (-4.3%)	-12.0 (-3.9%)
小計	37.5 (4.1%)	30.2 (3.2%)	67.7 (3.7%)	55.0 (3.1%)
その他	1.2 (2.7%)	-0.5 (-31.6%)	0.6 (1.5%)	-
合計	38.7 (4.0%)	29.7 (3.1%)	68.4 (3.6%)	-
調整額	-9.7	-10.1	-19.9	-25.0
全社	28.9 (3.0%)	19.6 (2.1%)	48.5 (2.6%)	30.0 (1.7%)

※()内の数字は営業利益率です。

SHARP

S-5

四半期 セグメント別売上高

(単位:十億円)

	FY2025				FY2026
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
スマートライフ	140.3	150.7	157.1	149.6	144.0
スマートワークプレイス	189.3	219.1	207.5	217.7	200.8
ブランド事業	329.7	369.9	364.7	367.4	344.9
ディスプレイデバイス	109.2	102.6	103.5	108.0	91.3
小計	439.0	472.5	468.2	475.4	436.2
その他	38.0	7.2	0.8	0.8	-
合計	477.0	479.8	469.1	476.3	436.2
調整額	-4.5	-1.9	-1.7	-1.1	-1.0
全社	472.4	477.8	467.3	475.1	435.2

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

SHARP

S-6

四半期 セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	FY2025				FY2026
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
スマートライフ	6.8 (4.9%)	6.4 (4.2%)	8.4 (5.4%)	6.7 (4.5%)	3.7 (2.6%)
スマートワークプレイス	14.2 (7.5%)	18.7 (8.6%)	13.7 (6.6%)	10.8 (5.0%)	10.7 (5.3%)
ブランド事業	21.0 (6.4%)	25.1 (6.8%)	22.2 (6.1%)	17.5 (4.8%)	14.4 (4.2%)
ディスプレイデバイス	-2.5 (-2.3%)	-6.2 (-6.1%)	-4.8 (-4.6%)	-4.7 (-4.4%)	-2.1 (-2.4%)
小計	18.5 (4.2%)	18.9 (4.0%)	17.3 (3.7%)	12.8 (2.7%)	12.2 (2.8%)
その他	1.3 (3.5%)	-0.1 (-1.6%)	-0.5 (-58.8%)	-0.0 (-2.6%)	-
合計	19.9 (4.2%)	18.8 (3.9%)	16.8 (3.6%)	12.8 (2.7%)	12.2 (2.8%)
調整額	-4.6	-5.1	-4.8	-5.2	-4.0
全社	15.3 (3.2%)	13.6 (2.9%)	12.0 (2.6%)	7.5 (1.6%)	8.2 (1.9%)

※()内の数字は営業利益率です。

SHARP

S-7

設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	FY2025			FY2026
	上期	下期	通期	通期予想
設備投資	16.3	14.3	30.7	39.0
内:ディスプレイ	6.1	4.4	10.6	10.0
減価償却費	15.0	14.6	29.6	35.0
研究開発費	34.7	34.3	69.1	75.0

(単位:円)

平均為替レート	FY2025			FY2026
	上期	下期	通期	通期予想
米ドル	146.04	155.51	150.78	160.00
ユーロ	168.06	181.52	174.79	183.00

四半期 設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	FY2025				FY2026
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
設備投資	5.1	11.1	6.6	7.7	4.8
内:ディスプレイ	1.2	4.9	2.1	2.3	0.8
減価償却費	7.5	7.4	7.2	7.4	7.4
研究開発費	17.0	17.7	16.6	17.7	16.2

(単位:円)

平均為替レート	FY2025				FY2026
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
米ドル	144.60	147.48	154.15	156.87	159.49
ユーロ	163.81	172.31	179.39	183.65	185.38

【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えうるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

※前年増減額等は、表示された億円単位の金額を元に算出しております。

※最終利益(損失)・・・

親会社株主に帰属する当期純利益(損失)など

※開示セグメント及び略号など

スマートライフ(SL)、スマートワークプレイス(SW)、ディスプレイデバイス(DD)

その他・・・SDP、カメラモジュール事業、半導体事業

SHARP

ひとの願いの、半歩先。

SHARP